

基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 26

基本施策 戦略的な観光の推進

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	観光資源の活用と滞在型観光の推進	B
施策2	イベントの充実と広報の推進	B
施策3	広域連携による周遊観光の推進	B
施策4	エコ・グリーンツーリズムの推進	B
施策5	国際観光の推進	C

成果指標

指標	内容	平成32年度 目標	平成30年度末 実績	単位	平成30年度の成果の検証
観光入り込み客数	大野市を訪れる観光客の年間総数(暦年)	220	199	万人	福井国体開催、COCONOアートプレイス、六呂師高原スキーパーク夏オープンなど施策効果から秋以降入込は増加したが、冬の豪雪、夏の酷暑が影響し198.8万人(前年比▲6400人)となった

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> 結ステーションを基点としたまちなか観光の充実を図るため、城下町東広場の整備やイベントの実施、滞在型旅行企画に対する助成を行うとともに、郊外では農業体験や自然体験などのエコグリーンツーリズムの推進や春の花や秋の紅葉などの観光情報の提供などに積極的に取り組んできた。 「天空の城越前大野城」等の効果で増加傾向にあった観光入込客数が伸び悩んでいる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 既存の観光資源をさらに磨き上げ、活用し、「天空の城」に続く魅力ある観光資源の掘り起しが必要である。 日帰りの観光客が圧倒的に多く、宿泊や食事、各種体験などを含んだ滞在型観光の推進、広域観光の推進など、戦略的な観光施策の推進により、越前おおのファンを増やし、さらなる交流人口の拡大を図る必要がある。

社会情勢・市民ニーズの変化

- 観光入り込み客数は200万人前後を維持しているものの、宿泊者数は少なく、滞在時間も短い。一人当たり観光消費額は低い水準のままである。
- 中部縦貫自動車道開通、北陸新幹線福井延伸時期は、福井県に対する観光需要が高まると考えられる。

現在の「現状」と「課題」

現状	COCONOアートプレイス、スキーパーク、HOROSSAのオープン、季節毎のイベント実施など、施策の効果に観光客の取り込みに成功はしているものの、越前大野城の入館者数が減少しており、まちなかへの入り込みが伸び悩んでいる。しかしながら、大野市観光協会アンケートによると観光消費額は増加の傾向を示している。
課題	大野市においては滞在時間が短く、観光消費額が低いことから、滞在時間を延ばす仕掛け(着地型観光商品の開発、土産品の開発等)への対応が重要となっている。また外国人観光客に対する受け入れ態勢の整備が不十分であり、宿泊人数が伸びていない。今後、観光消費額を増やす＝観光で稼ぐ仕組みをどのように作っていくのが課題となっている。

基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> 六呂師高原スキーパーク夏スキーゲレンデをオープンさせ、六呂師高原を通年で楽しむことのできるエリアとしてPRした。 官民協働で観光消費額を増やす取り組みとして、平成30年度においては、酒蔵周遊事業を広域連携により実施。宿泊者数の増加を図るため宿泊事業者が専門家に依頼して経営改善計画を策定する事業に対して補助金を交付する「結の宿再生促進事業補助」を行い、受け入れ環境の向上を進めた。天空の城に続く観光素材として、日本一きれいな星空に輝いたことがある六呂師高原に着目し、福井工業大学とミルク工房などと連携し星空ブランドの強化、観光誘客に取り組んだ。 豪雪や猛暑が影響し春夏は観光客数が伸び悩んだが、上記施策効果により、秋季以降の観光入込客数は前年度と比べ伸びている。
----	---

改善点

- 市内全域で観光資源の魅力を向上させることで、重点道の駅に来た観光客の周遊を促す。
- 魅力的な観光体験メニューを作ることで、滞在時間を増やすとともに、観光消費額の増を図る。
- 東京オリンピック・パラリンピックを控え、国では2020年の訪日外国人旅行者数4000万人、訪日外国人旅行消費額8兆円の目標を掲げている。本市では未だにインバウンドが少ないことから、広域観光団体と協力し台湾等での商談会を重ね誘客をすすめ、外国人が安心して市内を散策してもらえるよう民間施設での外国語表記看板やパンフレットの整備を補助するなど受入環境の整備を進める。